

花の大江戸を歩く会

鎌倉アジサイ&切通し散歩

「極楽寺～切通散策～鶴岡八幡宮」

☆迷子時の連絡先→09085831528(管理人携帯)

＜散歩道ガイド＞

源頼朝が、鎌倉に幕府を開いた最大の理由は一方は海に臨み、三方は山に囲まれて、敵の攻撃を守る軍事的要害の役割を果たせるからでした。いわば、ここは城塞都市でした。しかし、逆に言いえば、敵の攻め方によっては孤立を強いられる危険も持っていた。そこで、山の軍事的要害性は失わず、人々の往来や物資の運搬のため最小限の道が必要でした。このため鎌倉幕府は山を最小限度だけ切り取って鎌倉と各地を結ぶ道を作った。これが「切通し」でした。

鎌倉には、このような切通しが相当数ありますが、その中で主要な七つの切通しのことを「七口」とか「七切通し」と呼んでいます。今日は鎌倉の紫陽花と切通し散策を十分に楽しみましょう！

＜散歩道順路＞

極楽寺駅→極楽寺→極楽寺坂切通→成就院→御霊神社→長谷寺→高德院(大仏)→大仏切通(大仏ハイキングコース)→佐助稲荷→葛原ヶ岡神社→銭洗い弁天→源氏山公園→化粧坂切通し→岩舟地藏堂→亀ヶ谷切通し→建長寺→巨福呂坂切通し→鶴岡八幡宮→若宮大路→鎌倉駅

＜個別ガイド＞

① ◆極楽寺◆

この寺は、鎌倉唯一の真言律宗の寺。建立したのは、北条義時の三男・重時。重時は、執権を補佐する連署まで務めた人ですが、政治に執着することなく、出家してその邸に極楽浄土の姿を現そうとして大寺建立を思い立ち、正元元年(1259)に造営を始めた。ところが工事半ばの弘長元年(1261)に重時は亡くなった。その子・長時と業時が父の志を継いで完成させた。

忍性が招かれて開山となった。最盛期は七堂伽藍を備え、大小49の支院があった。忍性はこの広大な境内に、慈善救済の大事業を営んだ。施楽院・悲田院・療病舎などの建物が並び、日夜多数の病者を收容し、貧者には無料で加療・施薬をした。精力的な活動をした忍性は、さらに土木事業も起こし、各地に橋を189ヶ所、道は71ヶ所もあった。忍性は生き仏と仰がれていた。ところが元弘三年(1333)新田義貞の鎌倉攻めの際の戦火でことごとく焼失してしまった。今では昔の面影はないが、本堂前にある薬草を

すり潰した石臼と石鉢が、忍性の大事業を示している。忍性は後醍醐天皇より菩薩の称号を貰っている。

② ◆極楽寺坂切通◆

極楽寺坂の切り通しは鎌倉七切通しの一つで、京を結ぶ街道であった。元弘3年(1333)5月、新田義貞の鎌倉攻めの激戦地の舞台の一つでもある。鎌倉幕府の最後、北条氏滅亡の時である。新田義貞は自ら、2万騎を率いて深沢・津村を経て、腰越に迂回した。5月21日、極楽寺一帯は北条軍が強固な陣を構え、海上には大船を浮かべ、一部の間もなく、幾度となく両軍が攻防を繰り返す、多数の死者が出た。新田義貞は、極楽寺坂の突破をあきらめ、稲村ガ崎の海岸沿いからの攻略に切り替えざるを得なかった。

③ ◆成就院◆

成就院は真言宗大覚派の寺。縁起によると、江ノ島に来た弘法大師がこの地に来て、数日間護摩供を修めたという。その霊地に、承久元年(1219)に北条泰時が開創し、北条一族の繁栄を願ったと言う。しかし新田義貞により鎌倉幕府は滅ぼされた元弘三年(1333)の戦火で寺は焼け落ちたが、江戸時代に再建された。本尊は不動明王。アジサイで有名。アジサイ越しに見る由比ガ浜の海は絶景。

④ ◆御霊神社◆

御霊神社は各地にあるが、祖先の霊を守る社と、怨霊鎮護の為に祀る神社とある。この社は、鎌倉始祖の鎌倉権五郎景政を祀った神社である。御霊神社はその昔、鎌倉近辺には大庭、梶原、長尾、村岡、鎌倉という平氏五家があり、これら五家の祖を祀る神社として五霊神社が建てられた。これが御霊神社となり祭神としていつしか、武勇で名高い領主の鎌倉権五郎景政公一柱だけを祀るようになった。鎌倉権五郎景政公は、剛勇で知られた武将で、後三年の役(1083～)には16歳で出陣し、源義家に従って活躍した。この権五郎景政公の命日が9月18日で、この命日には、昔から面掛行列という珍しい行事があります。

⑤ ◆長谷寺◆

この寺は、鎌倉時代以前からある古寺です。天平8年(736)の創建と言われ、坂東3カ所観音霊場の四番札所であり、本尊の十一面観音は高さ9.18mあり木造では日本一と言われています。この像は大和の長谷寺の観音様と同じ楠の一木造りで、立ち姿が美しい。康永元年(1342)に足利尊氏が金箔を施し、明德3年(1392)には足利義満が光背を造って納めたといわれる。宝物館には文永元年(1264)の銘のある梵鐘や、元徳の銘のある懸仏などがあります。本尊は十一面観世音菩薩。

⑥ ◆高德院◆ (脇を通るだけです=時間の都合)

鎌倉を代表する名所となっている長谷の高徳院の本尊である大仏は、鎌倉幕府第三代執権・北条泰時の晩年になってから作り始めた。「吾妻鏡」によれば、北条泰時の時に、浄光という僧が諸国を勧進して浄財を集めて歩き、暦仁元年(1238)3月から大仏と大

仏殿を造り始めた。北条泰時もその建立に援助をした。そして大仏開眼は5年後の寛元元年(1243)6月11に行われた。泰時は前年の6月に62歳で亡くなった。この時、建立した大仏は木造であった。

そして4年後の宝治元年(1247)にこの大仏が暴風雨の為に倒壊したので、建長四年(1252)にあらためて金剛の大仏が造営され始めた。大仏殿は建武二年(1335)と志安二年(1369)の台風で倒壊。更に明応四年(1495)の大津波で押し流され、以来、現在の様な露座の大仏となってしまった。本尊の大仏は阿弥陀如来。阿弥陀如来の高さは12.38m、総重量は121トンである。

⑦ ◆大仏切通◆

大仏切通は、鎌倉から藤沢方面に通ずる切通。鎌倉七口の一つで、当時の面影をよく残している。ここから源氏山を経て北鎌倉の浄智寺までは、ハイキングコースとなっている。極楽寺へ抜けることもできる。『太平記』によると、1333年(元弘3年)、鎌倉を攻める新田義貞は、軍勢を巨福呂坂、仮粧坂、極楽寺坂(切通)の三手に分けて攻めた。その際、義貞は洲崎を経る中央軍の指揮をとった。洲崎の戦いは、大仏切通を目前にしての激戦だったと伝えられている。大仏切通がいつ頃開かれたのかは定かではないが、朝夷奈切通や巨福呂坂が開かれた1240年(仁治元年)から1250年(建長2年)頃ではないかと考えられている。

⑧ ◆佐助稲荷神社◆

源頼朝がまだ伊豆蛭ヶ小島に配流中の身であったころ、「かくれ里の稲荷」と名乗る神霊が夢に現れ、頼朝に挙兵を勧めたという。のちに、鎌倉に武家政権を築き上げた頼朝は、「かくれ里」と呼ばれるこの地に祠を見つけ、御家人畠山重忠に命じて社を建立させた。建立時期の詳細は不明。建久年間(1190~1199年)と考えられている。

「佐助」という名は、佐殿(すけどの)と呼ばれていた頼朝を助けたという。

⑨ ◆葛原岡神社◆

葛原岡神社は、由比ヶ浜の鎮守。祭神は後醍醐天皇に仕えた朝臣日野俊基。明治20年、明治天皇によって忠臣顕彰のために創建された。俊基は、1332年(元弘2年)、倒幕計画に参加した罪で葛原ヶ岡で斬首された。葛原岡神社がある場所が俊基の最期の地といわれ、「秋をまたで葛原岡に消ゆる身の露のうらみや世に残るらん」と詠んで死に果てたという。→ランチ(手弁当)を楽しみましょう!

⑩ ◆銭洗弁財天◆

平安末期、鎌倉は災害が続く貧困にあえぐ庶民のために、源頼朝が世の救済を祈願したところである。巳の年の文治元年(1185)の巳の月、巳の日の巳の刻、宇賀福神から「この地に湧き出す水で神仏を供養せよ、そうすれば天下泰平の世が訪れる」と源頼朝の夢にお告げがあり、そこで源頼朝はこの地に社を建てて宇賀福神を祀った。その後、世の中の混乱は収まったと伝えられている。この話が発展していつの頃からか、その霊水で

お金を洗うと倍になると言う信仰が生まれた。鎌倉五名水の一つである。巳の日の縁日には参拝者で賑わう。

⑪◆源氏山公園◆

平安時代の、後三年の役（1083～1087）に源頼朝の先祖である源頼義（八幡太郎）は、陸奥の豪族・安倍氏の討伐に出陣。その時、ここの山上に白幡を立てて、氏神の岩清水八幡宮に戦勝を祈願し、出征した。源頼朝も此れに習って、平家追討の時、山頂で、源氏の戦勝を祈願したと言われる。昭和40年に出来た公園。桜（4月）、紫陽花（6月）、さざんか（11月）の時期が綺麗です。近くに頼朝の父・源義朝の館の跡に建てられた寿福寺がある。

⑫ ◆化粧坂切通◆

元弘3年(1333)5月18日、新田義貞の鎌倉攻めの時、激戦地となったつづら折の坂道である。わずか80m程の坂道であるが幕府軍の抵抗は激しく、新田軍は、4日後の21日になっても突破できなかつた。化粧坂切通しは、鎌倉七切通しの一つで、武蔵方面から葛原が岡を通過して鎌倉へ入る切通しである。この切通しは、武蔵方面へ通じる主要な出入り口として、鎌倉の防衛上重要な意味をもった。名の由来は、平家の武将の首を化粧して首実検したからと言われている。この地は、鎌倉後期には栄え、人々の往来で賑わっていたようである。

⑬ ◆亀ヶ谷坂切通◆

鎌倉七切通しの一つで、源頼朝が初めて来た頃は、北から鎌倉へ入る道は此処だけでした。今でも急な坂道ですが、昔はもっと急な坂だったようです。「建長寺にいた亀がこの坂を上ったものの、頂上まで行くことが出来ずに引き返した」という伝説があり、それから亀返り坂(かめかえりさか)と呼ばれるようになり、それがいつからか亀谷坂と呼ばれるようになったと伝えられています。

⑭ ◆巨福呂坂(こぶころざか)切通◆

今の巨福呂坂はトンネルを掘ったあと、切通しは道路になってしまっているが、昔は巨福呂と書き、今の西側の山を越えていく道であった。巨福呂坂切通しは鎌倉七口の切通しの一つで、鎌倉幕府三代執権・北条泰時が延応2年(1240)に防衛と人の通行、物資の輸送の便を図る為に、深い切通しを造った。鎌倉幕府最後の日、元弘三年五月、鎌倉攻めの新田義貞軍の将・堀口貞満、守る北条軍の将・長崎高重で、両軍の激突は物凄く、19日から22日まで烈しい攻防戦が展開されたのが巨福呂坂の戦いであった。

⑮ ◆鶴岡八幡宮◆

鶴岡八幡宮は、京都の石清水八幡宮を厚く信仰していた源頼義が前九年の役で奥州の安部氏を平定した後、康平6年(1063)8月、京の石清水八幡宮を鎌倉由比ガ浜郷に勧請し社殿を創建した。その後、治承4年(1180)、源頼朝が鎌倉入りするや由比ガ浜の八幡宮(元八幡)を、この地小林郷に移した。建久2年(1191)には武士の守護神の宗社に相応しく上下両宮の現在の姿に整えた。源頼朝が、この高台に社殿を作った時は、既に平家

は滅亡し、奥州・藤原氏も討伐し、全国60余州を平定した時であった。翌年には、征夷大將軍になり、まさに頼朝の絶頂期であった。鎌倉はこの頃は既に、京都と並んで政治文化の中心となっており頼朝は関東の総鎮守となって崇敬されていた。以来、鶴岡八幡宮は常に鎌倉のシンボルであり、幕府の儀式や行事はすべてここを中心に行われた。また武門のシンボルとしても豊臣、徳川家から手厚い信仰を受けていた。

★舞殿→鶴岡八幡宮の仁大門を入ると舞殿の広場がある。舞殿は、本宮への石段の前に建つ、入母屋造りの建物。ここは、かつて舞いの名手で、源義経の愛人であった、静御前の悲しい逸話が残っています。吉野山で捕らえられた静御前は、源頼朝に舞を命ぜられ「吉野山みねのしら雪踏み分けていりにし人のあとぞ悲しき」と義経を慕う歌を詠み舞った。これが頼朝の怒りをかい、義経の子と、自らの命を失う悲劇が生まれた。

★本宮→正面の石段を登りきると、正面に総朱塗りの楼門が大きい随神門がある。源頼朝が、この高台に社殿を作ったのは、建久2年(1191)で、既に平家は滅亡し、奥州・藤原氏も討伐し60余州を平定した時であった。翌年には、征夷大將軍になり、まさに頼朝の絶頂期であった。本宮は文政11年(1828)、江戸幕府11代将軍・徳川家斉の造営で代表的な江戸建築である。また2代江戸幕府将軍・徳川秀忠が修造した若宮と併せて国の重文になっている。→鎌倉駅へ

♡「花のお江戸歌声コーナー」：大きな声で歌いましょう！♡

「鎌倉」 作曲者不詳 作詞者=芳賀矢一 文部省唱歌

- 1、七里ガ浜の、磯伝い、稲村ヶ崎、名将の、劍投ぜし古戦場
- 2、極楽寺坂、越え行けば、長谷観音の、堂近く、露坐の大仏おわします
- 3、由比の浜べを、右に見て、雪の下村(したむら) 過ぎゆけば、八幡宮の御社(おんやしる)
- 4、上るや石の、きざはしの、左に高き大銀杏、問わばや、遠き世々(よよ)の跡